

令和7年度「船上山アカデミー」実施報告書

I 事業の概要

1. 期 日 令和7年12月26日(金)～28日(日) 2泊3日



2. 日 程

12月26日(金)		12月27日(土)		12月28日(日)	
13:30	受付開始	6:30	起床	6:30	起床 部屋の片付け
14:00	出合いのつどい	7:00	朝のつどい	7:00	朝のつどい
14:30	交流レクリエーション	7:20	清掃	7:20	清掃 荷物移動
15:20	オリエンテーション 荷物移動	7:45	朝食	7:45	朝食
16:00	目標設定&共有	8:45	個人学習③(40分)	8:45	退所点検
16:25	個人学習①(50分)	9:35	みんなで学習①	9:00	個人学習⑧(50分)
17:30	夕食	10:20	クラフト(ミニ門松づくり)	10:00	みんなで学習③
18:30	ほっと一息リフレッシュ①	11:10	個人学習④(40分)	11:10	キンボール
19:45	個人学習②(40分)	12:00	昼食	12:00	昼食 感想記入
20:25	振り返り	13:00	個人学習⑤(50分)	13:15	別れのつどい
20:40	入浴・就寝準備	14:00	みんなで学習②	13:45	解散
22:00	消灯	15:15	学びのすすめ		
		15:45	個人学習⑥(50分)		
		16:45	ドッジビー		
		17:30	夕食		
		18:30	ほっと一息リフレッシュ②		
		19:45	個人学習⑦(40分)		
		20:25	振り返り		
		20:40	入浴・就寝準備		
		22:00	消灯		

3. ねらい

- ・ 学習課題に個人やグループで取り組み、相互に刺激し合うことを通して、学習意欲の向上を図る。
- ・ 交流活動や集団生活を通して、自律的な生活態度や互いにより良い関係を築こうとする態度を養う。

4. 講 師

倉吉自然科学研究会 中本 義明 氏
清元院 住職 井上 英之 氏



5. 対 象 小学4年生～高校生 36名

6. 応募者数・当日参加者数

応募者数 44名
当日参加者数 36名(小学生25名、中学生10名、高校生1名)



7. 参加費 4,700円

8. サポーター

学生サポーター 12名(島根大学11名、鳥取大学3名)

II 実施状況

■ 1日目の活動〈12月26日(金) 天候 雪〉

14時から出会いのつどいを行い、船上山少年自然の家職員と学生サポーターのユニークな自己紹介で場を盛り上げた。参加者は若干緊張していたが、きまりや今後の予定についての説明を注意深くよく聴き、2泊3日の船上山アカデミーに向けて気持ちを引き締めている様子であった。

初めに、参加者同士で関わり合う「交流レクリエーション」を行った。サポーターも一緒に参加し、お互いに自己紹介をしながら交流を図った。後半には、活動班の友達と自己紹介をつなげていく活動や、部屋班対抗でじゃんけんゲームを行った。こうした活動を通して、参加者の緊張もだんだんとほぐれていく様子が伺えた。

交流レクリエーションを終えると、施設の使い方や過ごし方に関するオリエンテーションを挟んで、参加者自身の個人目標を設定した。2泊3日の日程で学習と仲間づくり活動を行っていくにあたって、自身の成長につながるような「学習の目標」「仲間づくりの目標」と1日ごとの個人学習の予定を立て、カードに記入した。「学習の目標」「仲間づくりの目標」については、班の友達と紹介し合う時間を持ち、互いの目的意識を共有することもできた。

個人学習の時間では、最初に「頭ほぐし」として簡単な計算問題(最大100問)を短時間で解き、脳を活性化させる時間を設けた。この時間の前半は個人でじっくり学習に取り組む時間、後半は分からないところを質問できる時間とした。サポーターには、机間巡視をしながら参加者からの質問を受けたり、困っている様子の参加者に声をかけてもらったりして、問題を解く支援を行っていただいた。夕食後には「ほっと一息リフレッシュ」と題して、1日の終わりにリフレッシュをして次の学習活動への意欲を高めるというテーマの活動を設定した。

1日目の夜は、倉吉自然科学研究会の中本義明氏による「星空観察」の時間を設けた。天候等の状況から外での観察はできなかったが、天体観察のアプリを使って講話をしていただいた。学校で学習した星や星座の名前が出てきたり、星についての質問をしたりと学びを深めながらも、居心地のいい雰囲気でリラックスして過ごせる時間となった。

1日の終わりは、再び個人学習の時間である。終始落ち着いて学習に向かう雰囲気を参加者全員でつくり、1日目を終えることができた。

■ 2日目の活動〈12月27日(土) 天候 曇り時々雪〉

この日の午前中は、個人学習の他に2つの新しい活動があった。

1つ目「みんなで学習」は、班の友達と協働的に課題を解決してい



く活動である。この時間には、与えられたヒントを班員に伝え合い1枚の地図を作り上げていく「地図作成ゲーム」を行った。参加者たちは初めての班での学習活動だったが、活発に意見を出し合いゲームを進めていた。活動終了後には、誰がどのような役割を果たしていたか、班の協力はどれくらいできたか、といった振り返りをした。

午前中の新しい活動の2つ目「ミニ門松飾り」は、本物の竹を使って手のひらサイズの門松を作成した。本物の竹や松の枝といった自然物を材料に使うことで、参加者は自然に触れることも楽しみながら門松飾り作りに取り組んでいた。

午後の「みんなで学習」では、4・5年生グループと6年生・中学生・高校生グループに分かれ、それぞれ難易度の違う難問に挑戦した。「全員納得」をキーワードに知恵を出し合ったり教え合いをしたりと、お互いに関わり合っ問題に取り組む姿が見られた。

続いて、「学びのすすめ」と題して、2名のサポーターから学習方法に関するアドバイスや自身の体験談などを話していただいた。学習についてだけでなく、自身の体験談や実際に体験することの大切さなどを話していただき参加者にとって有意義な時間となった。

夕食前には、体育館でニュースポーツ「ドッジビー」を行った。2日間学習を中心に机に向かい続けた息抜きとして、とても活発にドッジビーを楽しむ姿が見られた。力いっぱいフリスビーを投げたり、大きな歓声があがったりと大盛り上がりだった。

2日目夜の「ほっと一息リフレッシュ」では、清元院住職の井上英之氏による「坐禅」の指導を受けた。参加者は時間いっぱい落ち着いた態度で坐禅に取り組み、学習に向かうために心を整えた。その後の2日目最後の個人学習の時間も、1日目と同様に最後まで集中して学習に向かうことができた。

このように2日間過ぎてきて、最初は知らない者同士だった参加者たちもすっかり打ち解け、仲間意識が芽生えてきたようだった。休憩時間には、他の班の人とも集まって談笑したり、ボードゲームなどで遊んだりする姿が見られるようになった。

■ 3日目の活動(12月28日(日) 天候 曇り)

最終日には、3回目となる「みんなで学習」を実施した。この日は、参加者と学生サポーター全員が一つのグループとして難問に挑戦した。この日もキーワードは「全員納得」だが、小学4年生から大学生まで校種や学年を超えて協力し合う姿が見られた。時間が来るまで問題に挑戦し、分からないときは分かるまで質問したり、相手が分かりやすいように説明の言葉を工夫したりと「全員納得」に向かおうとする姿が前日よりたくさん見られた。

午前中の最後には、体育館でニュースポーツ「キンボール」を行った。今までのさまざまな活動で培ってきたチームワークを発揮してのフアインプレーが続出し、得点が入ると互いにハイタッチをして喜び合うなど、大いに盛り上がった。

個人学習では、3日間続けてきた「頭ほぐし」で多くの参加者が問題数や所要時間の新記録を打ち立てることができた。自分の課題に取



り組む時間では、1問でも多く問題を解こうと最後の最後まで粘る姿が見られた。

別れのつどいでは、3日間の活動を振り返るスライドショーを鑑賞した後に、船上山アカデミーの修了証書が参加者全員に渡された。やり切った達成感や満足感を胸に、笑顔で船上山少年自然の家を後にした。



Ⅲ 総括

1. アンケート結果(参加者36名 アンケート回収率:97%)

《参加者の満足度》

事業全体の満足度 満足:27名 おおよそ満足:8名

《参加者の感想(抜粋)》

- ・ 自分以外に高校生がいなかったのが少し不安でしたが、大学生が昨年度よりも多く、サポートも手厚かったのがとても楽しかったです。中学生が班にいなかったけど、6年生が自分から動いてくれたり、他の子達も指示を出さなくてもお互いで声をかけ合って行動していて良かったです。毎年参加していても飽きずに来れているので来年も受験生になるけれど参加したいです。自分の目標も、勉強と友人関係の部分どちらも達成できました。長いようで短かった3日間でした。とても楽しかったです。(高校生)
- ・ 2泊3日の少ない時間だったけど、勉強面では自分の目標にそって、3日とも大学生の人といっしょにがんばり、自分の苦手な数学を少しでもとけるようになりました。生活面では、同じ班の人とたくさんかわり、仲良くできたと思うし、たくさん友達もできてとてもいい経験になったと思います。(中学生)
- ・ 目標にしていた宿題をすべてすることはできなかったけど、友達づくりがたくさんできたから楽しかったです。星空観察は雪でできなかったけど、座禅やみんなで学習をがんばったと思ったのでよかったです。来年はもっと学習もがんばって今年のように楽しく参加したいです。(小学生)

2. 成果

- ・ 開催時期をずらしたことで募集を早めたこともあり、学生サポーターが多く集まり学習指導や班付きとして十分な支援をしてもらうことができた。
- ・ 「個人学習」の時間では、一人一人が自分の課題に集中して取り組み、参加者全体で学習に向かう雰囲気をつくることができた。
- ・ 「みんなで学習」の時間は、「全員納得」を中心に活動を進めていくことで他者との関わりが増え、学習問題を通して仲間づくりを行うことができた。
- ・ その他のプログラムでも、参加者にとって新鮮な体験や参加者同士で関わり合う活動を提供することができた。

3. 課題

- ・ 活動開始時刻をこちらが声をかけなくても参加者が意識して守れるような意識づけや価値づけをしていく必要がある。
- ・ 各活動時間が短く、中途半端に終わってしまった活動があった。各活動の充実のためにも実施内容の見直しが必要である。
- ・ 参加者の感想では、学習時間が短いという意見と、丁度よかったという意見と両方見られた。参加者の学年の分布などと合わせながら学習時間の長さやバランスを調整する必要がある。